

最優秀賞「電車まだかなあ」

いろいろなことが語れる作品です。ブルーグリーンに塗られた古い駅舎のたたずまい、そのガラスに映った木立と空、遠くを見る少女二人の絶妙な立ち位置など。トリミングされていると思いますが、その切り取り方も効果的です。もし下側に雑草が生えた線路が移っていたら、それも面白いでしょう。人物を変えれば、また違うストーリーを紡げる写真です。

全日本写真連盟賞「帰り道」

凍結した道路で男子学生がスケート遊びをしながら下校しているのでしょうか。背の高さを遙かに超える積雪、人のいないスキー場と、豪雪地帯の冬の厳しさ、わびしさを感じる風景ですが、少年たちの存在が明るいアクセントになっていて、深みのある写真になっています。ホワイトバランスを調整すれば雪はもっと白く、夕景は赤くなりますが、むしろこの色味のほうが雰囲気が出ていると思います。

朝日新聞社賞「太鼓に舞う」

非常に斬新な構図で、技術を駆使して迫力のある画面を創り出しています。絶妙のシャッタースピードで炎や舞う雪をとらえ、女性の舞う姿を大ブレする寸前で止めています。彼女の視線と、頭に積もる雪が印象的です。手前の人物のシルエットも大きな効果をあげています。祭り写真の新境地を開拓した写真です。

優秀賞「安曇の子等」

どういう状況で何を食べているのか分からないのですが、その不可思議さが魅力の写真です。左の男の子は、おいしさを味わっているのか、それとも思った味と違って衝撃を受けているのか？ 対照的に右の男の子は黙々と食している。そんな対比がスカッと抜けた背景もあいまってユーモラスさを醸し出しています。

優秀賞「傘の中」

単に女子小学生をビニール傘越しに撮った写真なのですが、まるでベールの向こうから見つめる貴婦人のような、妖しげで大人びた雰囲気を漂わせる作品です。真っ赤なランドセルと傘の雨滴が効果的に画面を彩り、ちょっと幻想的な写真になりました。いいモデルを見つけましたね。